

ピアノ初心者への読譜力のつけ方の指導法

—初めてピアノを弾く学生指導の経験を基に—

中島 美保

The teaching method of reading music for beginners
-Based on the experience of teaching students to play the piano
for the first time-

Miho Nakashima

Abstract

In today's world, music always reverberates in our lives, and we live in a world where we can easily listen to and sing our favorite songs on TV, smartphones, etc., without reading musical scores or playing a piano accompaniment.

Moreover, today's children search for their favorite singers and songs on YouTube, etc., and just by listening to the sound source, they can sing very well in a way that looks exactly like the singer. These days, in music classes at kindergartens, nursery schools, and elementary schools, teachers do not often read music scores and practice piano accompaniment, nor do children sing while looking at music scores. On the other hand, many teachers are now having students memorize songs by ear, relying on CDs and YouTube.

At the university and junior college where the author belongs, many children with no piano experience who grew up in this way and aspired to become childcare workers or elementary school teachers had to work very hard to earn the credits in "playing the piano," a required course or a course to be taken. Many university and junior college students who have never played the piano are faced with a situation where they are having a hard time earning credits.

There are many students who have never played or even touched the piano, cannot read music, do not know the difference between the treble clef and the bass clef, and do not even know the types of notes, such as # and b. In the 14 sessions of the first semester, private lesson instruction in a short class of about 15 minutes per student on average was insufficient time for explanation and instruction to help students complete the many pieces of music assigned to them. As a result, the students did not understand the music and would not play the assigned pieces.

After all, many students dropped out or failed to complete all the assigned pieces and did not receive credit.

Therefore, in order to make it easy to understand in a short class and to make the practice smooth, I distributed and explained my own "explanatory score printout" so that the students could practice hard without abandoning the training. I would like to discuss the progress and practice results of students who have grown to be able to read music scores over the years and play various songs smoothly with both hands, and to continue teaching to many students who have never played the piano or who are not good at it.

Keywords : beginners, easier way, skill of reading

1. はじめに

今の世の中、音楽は常に生活の中で鳴り響き、楽譜を見なくても、ピアノ伴奏しなくても、テレビ、スマホなどで、簡単に好きな曲を聴いたり歌ったり出来る世の中である。そして現代の子どもたちは、好きな歌手や歌を YouTube など検索し、その音源を耳で聴いただけで、歌手そっくりな歌い方で、大変上手く歌えている子どもや学生を多く見かける。最近では、幼稚園、保育園、小学校の音楽の授業も、先生が楽譜を譜読みしピアノ伴奏を練習して、譜面を見ながら園児や児童が歌うことが減っていき、CD や YouTube などを頼りに、耳で覚えさせ歌を歌わせる教員が多くなってきたように感じる。

そうして育った子供たちが、保育士や小学校教員を目指し、志望大学や短大に意気揚々と入学したものの、必須科目もしくは履修科目である「ピアノを弾く」授業において、筆者が非常勤講師として勤める大学や短大の、多くのピアノ未経験者の学生が、大変な苦勞をして単位取得に四苦八苦する現場に直面する。

ピアノを弾いたことがない、また触れたこともない学生、楽譜が読めず、ト音記号とヘ音記号の区別や、音符の種類、＃、♭の存在すら知らない学生も多く、前期14回で1人あたり平均15分ほどの短い授業内での個人レッスン指導で、多くの課題曲を学生達がクリアしていくには、説明や指導が時間不足で不十分になり、結果学生たちは理解しないままで、課題曲が弾けず途中脱落する学生や、課題曲を全てクリアできず単位取得できなかった学生が多い。

そこで、どうにか短時間授業内でわかり易く、練習をスムーズにしてもらえるように、筆者なりの独自の「解説楽譜プリント」を配布し説明して、学生たちが練習を投げ出さず、頑張って練習し、1年間で楽譜が読め、両手で色んな曲がスムーズに弾けるように成長した学生たちの経過と実践結果を論じ、今後も多くのピアノ未経験者や苦手な学生に伝授していきたいと考える。

2. 考察方法

*考察対象者として、筆者が非常勤講師として勤務する「K 短期大学 保育科」の学生、「S 大学 児童教育科」の学生とする。

考察対象学生の内訳

()…うち男子学生数

	R.2	R.3	R.4	合計	合計
K 短期大学	5 人	7 人	7 人	19 人	43 人(8)
S 大学	0 人	12 人(3)	12 人(5)	24 人(8)	

授業数、課題曲数の内訳

	時期	科目	授業回数	課題曲数	
K 短期大学 保育科	1 年前期	ピアノ I	1 4	約 3 5	
	ちょうちょう・虫の声・ジングルベル・おかたづけ・お正月・おべんとう・おかえりのうた 等				
	1 年後期	ピアノ II	1 4	約 4 0	
	こいのぼり・山の音楽家・思い出のアルバム・おつかいありさん・おうま・犬のおまわりさん等				
	2 年前期	ピアノ III	1 4	約 9	
さんぽ・となりのトトロ・にじ・ドレミの歌・大きな古時計・にげんっていいな・ピリブ 等					
S 大学 児童教育科	1 年前期	器楽入門	1 4	約 3 0	
	バイエル(52・58・55・66・69・76・72・78 等)・かえるの合唱・大きな栗の木の下で・こいのぼり 等				
	1 年後期	器楽基礎	1 4	約 3 6	
	バイエル(90・94・96・97・100 等)・アルプス一万尺・森のくまさん・春の小川・茶つみ・とんび 等				

- I) 初回の授業で、学生 1 人 1 人に、ピアノを弾いた経験があるかないかの質問をした上で、最初の課題曲「5 指の練習曲」(譜例①)の楽譜を見てもらい、まずは弾いてもらう。
弾ける学生 → 説明、解説楽譜プリント不要で、次の課題曲へ
弾けない学生 → 音符の種類、指番号、ト音記号とヘ音記号の「ド」の位置など、最低限の説明をし、解説楽譜プリントを配布。解説楽譜プリントの見方を説明。
- II) 2 回目以降は、解説楽譜プリントを配布した学生には、そのプリントを見て自力で練習させ、次の課題を合格させるために、必ずその課題曲のレクチャーをし、プリントを見て弾くだけでは難しい箇所のアドバイスをし、授業を終える。
- III) 授業終盤、全学生にアンケート調査を行い、「解説楽譜プリント」の活用を振り返り、活用した結果、最初の自分と比較させ、今現在「読譜力」がついたか、「ピアノを弾く」事への苦手意識などの気持ちの変化を、アンケートに答えることで再認識させる。
- IV) 個人授業レッスンだからこそ、個人個人の性格を知り、個性を引き出しながら、一方的な授業にならないよう、出来るだけ短い時間でコミュニケーションを図り、努力した事実を褒めることで、自ら今後も「ピアノを弾く」事への躊躇いをなくしていく。

3. 考察の詳細

- 1) 初回の授業で、学生1人1人に、ピアノを弾いた経験があるかないかの質問をした上で、最初の課題曲「5指の練習曲」の楽譜を見てもらい、まずは弾いてもらう。

5指の練習

弾ける学生 → 説明、解説楽譜プリント不要で、次の課題曲へ

弾けない学生 → 解説楽譜プリントを配布し記載している内容の説明

- 2) 指番号の説明、大譜表のト音記号とヘ音記号を同時に弾く説明。鍵盤上で「ドレミファソ…」位置確認

左手 右手

♭ ♮

右手指番号	①	②	③	④	⑤
	ド	レ	ミ	ファ	ソ
左手指番号	⑤	④	③	②	①

通常ピアノを弾けない学生にとっては、右手の「ドレミファソ」を「1 2 3 4 5指」で弾くのは認識があっても、左手の「ドレミファソ」を「5 4 3 2 1指」で弾く事への認識がなく、また利き手ではない左手の殆どの学生には、左手の「5 4 3」の指は特に動かし辛い様子。左手の「5 4 3 2 1」の順番での動きに慣れる練習をさせる。

ピアノ未経験者の大半が、左手の指番号と音が一致できず、左手の「1 2 3 4 5」は「ソファミレド」だが右手と同じ「ドレミファソ」と勘違いしてしまう。人は皆左右同じ指番号同士を同時に動かす事は簡単にできる。また鏡の原理と同じで、人が向き合って立ち1人が右手を上げれば、向かい合う1人は左手を上げないといけない。指番号も同じでその逆の方向への慣れが必要である。そのため（譜例①）を弾く練習は最初に念入りにし、指番号と楽譜上のト音記号とヘ音記号の「ドレミファソ」をしっかり覚えさせる。そして今後「解説プリント」での練習をする上で「指番号の理解」が重要であり、導入であるこの時期に、しっかりと指番号の認識をさせることが、読譜力がつく早道である。

3) 音符・休符の種類、記号の説明（タイとスラーの違い等）

ピアノ未経験者は、音符が読めないだけでなく、音符や休符の長さも理解できていない学生が多い。また楽譜に記載される「音楽記号」は、その記号がでた最初の楽譜には必ず読み方と意味を記載し、新しい曲にとりかかった譜読みの時点で理解し、正しい弾き方で練習し、無駄な訂正時間を無くすようにしている。

4) 「解説楽譜プリント」の見方を説明（主な記号）

・ 音符の上下にある数字 …指番号	・ 青字…階名	・ 赤字…音の方向・注意点
・ 音が上に上がる 	・ 音が下に下がる 	・ 指くぐり 
・ 左手和音奏で 1,2 指が 2 度音程の場合 ○	・ 1 オクターブ上 	下 

※本誌では白黒印刷の為、青字・赤字は全て黒字で印刷されますが実際には青・赤である

5) 「ハ長調音階」の練習で「解説楽譜」の見方に慣れる

ハ長調



①から始まる音階
ハ長調の音階
スラー (滑らかに)
低いド タイ (2つの音を繋げて弾く)
アクセント(その音を特に強く)

全ての音に指番号を記載し左右どちらも 3-1 1-3 の指くぐりがあり、その箇所は  記号が記載されているので、指番号通りスムーズに音階が弾ける。また「タイ」「スラー」「アクセント」の読み方、意味も記載し自己練習が迷いなくスムーズに出来るようにする。

ハ長調で指くぐりを慣らしておく、ト長調、二長調は#を、ヘ長調はbを付け忘れず、主音さえ解れば容易に弾けるようになる。但しヘ長調は右手のみ 4-1 の指くぐりになるので授業内で説明し注意する。

6) 「左手コード奏」の練習で、指番号パターン(各調同じポジション)を理解する

左手のコード奏 ハ長調

ドが主音

C F C C G G7 C

左手のコード奏 ト長調

ソが主音 ファに#

G C G G D D7 G

左手のコード奏 ヘ長調

ファが主音 シにb

F Bb F F C C7 F

左手のコード奏 二長調

レが主音 ファ・ドに#

D G D D A A7 D

教科書には、音符、コードネーム、最低限の指番号しか記載されていないが、指番号が変わる箇所は全て追記で番号を記入。調号だけでは#やbを付け忘れるので全て#やbを追記。それぞれの調の主音(左手5の指の音)を記載。

「コード奏」も「音階」同様に、ハ長調での指番号で慣れれば、調が変わっても同じ指番号で弾けるので、1音ずつ音を読まなくても同じ指のポジションで「コード奏」が弾ける。

「ハ長調」のコード奏の指ポジション I (C)=ドミソ= 5・3・1 指を基本に

- ・ IV (F)=ドファラ=1 指 1 音上げて 5・2・1 指
- ・ V (G)=シレソ=3・5 指を 1 音ずつ下げて 5・3・1 指
- ・ V7 (G7)=シファソ=5 指 1 音下げて 2・1 指くっつけて 5・2・1 指

まずはハ長調左手のコード奏を反復練習し、指のポジションに慣れさせる。
 スムーズに弾けるようになった後に、「ト長調 (ファ#)」「ヘ長調 (シb)」「ニ長調 (ファ・ド#)」のコード奏に取り掛かり、同じ指ポジションの動きで弾けることを理解させる。
 すると殆どの学生は、どの調もスムーズに指を動かして「コード奏」が弾けるようになる。
 色々な調で左手コード奏が弾けるようになれば、そのコードを色々な伴奏型にアレンジすれば、保育や小学校の音楽で取り扱う曲は、大体左で伴奏が弾け、右手は歌のメロディーを弾けば1曲が両手でスムーズに弾けるようになる。
 この「左手コード奏」はかなり現場で実践して役立つ奏法なので、学生には徹底的に習得させるように心がけている。

7) 課題曲の練習に取り掛かる。

うさぎとかめ (マーチ) の曲で、「教科書楽譜」と、「解説プリント」で弾きやすさを検証

うさぎとかめ (マーチ) <教科書>

うさぎとかめ (マーチ) <解説プリント>

まずは、教科書楽譜で右手メロディーを弾かせると、知っている曲なはずだが、殆どの学生が2段目の最初の音で指ポジションが変わるためつまずく。また最後の小説で1-2の指くぐりがあるが解らず戸惑っている。他の箇所も指番号が数か所しか記載されていない

いので、スムーズにはなかなか弾けない学生が多い。

その点、解説プリントの楽譜を見れば、全ての音に指番号を書いているし、出だしの音と指番号(ソ5)、また2段目で指ポジションが変わる(ソ2)、指くぐりのマーク「 \square 」を記入しているので、注意すべき箇所が目で見ても判断でき、譜読みがスムーズにできる。

また、左手コード奏は \diagup \diagdown などの記号を見ると、指ポジションがスムーズに行える。両手で弾く場合も、注意すべき指番号や、指ポジションが目で見ても判るので、音の間違いや弾き間違いが殆どなく、練習が短時間で出来るようである。

- 8) 左手コード奏ではない伴奏型と、左手にト音記号とヘ音記号が混在する比較的難しい譜読みの楽譜「おつかいありさん」で、検証

<教科書>

おつかいありさん

関根栄一 作詞
團伊玖磨 作曲

♩=120 かわいらしく

31

1. あ ん ま り い そ い で こ っ つ ん こ し
2. あ い た た ご め ん よ そ の ひ よ う

あ り さ ん と あ り さ ん と こ っ つ ん こ
わ す れ た わ す れ た お お つ か い を }

あ っ ち い て ち ょ ん ち ょ ん こ っ ち き て ち ょ ん

前 奏

この曲はニ長調、ファ・ドに#がつき、頭では理解していてもピアノに慣れない学生には、その音に#が付いていないと調号だけではつい付け忘れてしまう。そのため殆どの学生は冒頭右メロディーで1番の指で弾く「ファ」に#を付け忘れる。また2段目に指番号が全く書かれていないので指が迷ってしまう。最後の小節のオクターブ上「レ」音も不慣れた学生はすぐには音が判らない。

左手伴奏型は、今までに慣れてきたコード奏ではない上に、左手にも関わらず冒頭「ト音記号」で記譜され、4小節目からは「ヘ音記号」に変わるので殆どの学生は、3小節目の1拍目「レファ#」の和音が、4小節目の1拍目の「レファ#」と同じ高さの音と解らず

音の高さ全てが混乱し、また左手には指番号記載が全くないので、どの指から弾き始めた
ら良いのかも判らず、取り掛かりからつまづき練習意欲を失うようである。

そこで「解説プリント」では、注意点と指番号を全て記載した楽譜で譜読み練習すると
迷いなく練習に取り掛かれ、一気に両手で弾く事は困難だが、片手ずつで弾けるように
練習してくる学生が多い。

<解説プリント>

おつかいありさん

関根栄一 作詞
團伊玖磨 作曲

♩=120 かわいらしく

31

The image shows a musical score for the song 'Otsukai Arisan' (おつかいありさん). It consists of three systems of music. The first system is the vocal line, with two verses of lyrics: '1. あんまりいそいで こっつんこ' and '2. いたたごめんよ そ の ひょう'. The second system is the piano accompaniment, with lyrics 'あ り さ ん と あ り さ ん と こ っ つ ん こ' and 'わ す れ た わ す れ た お つ か い を'. The third system continues the piano accompaniment with lyrics 'あ ち い て ち ょ ん ち ょ ん こ っ ち き て ち ょ ん'. The score includes detailed fingering numbers (1-5) above notes, circled notes with annotations like '同じ音の音' and '指番号', and other markings such as '♯2', 'oct F', and '前奏'.

今回はこの2曲の解説プリントの紹介だったが、筆者は学生の課題曲全ての曲に、この
ような解説、注意点を記載した「解説プリント」を配布し、ピアノ初心者には特に自宅
での練習が迷いなくスムーズに出来るよう、またピアノの練習自体が苦痛、重荷といっ
た精神的なストレスを少なくするようにしている。

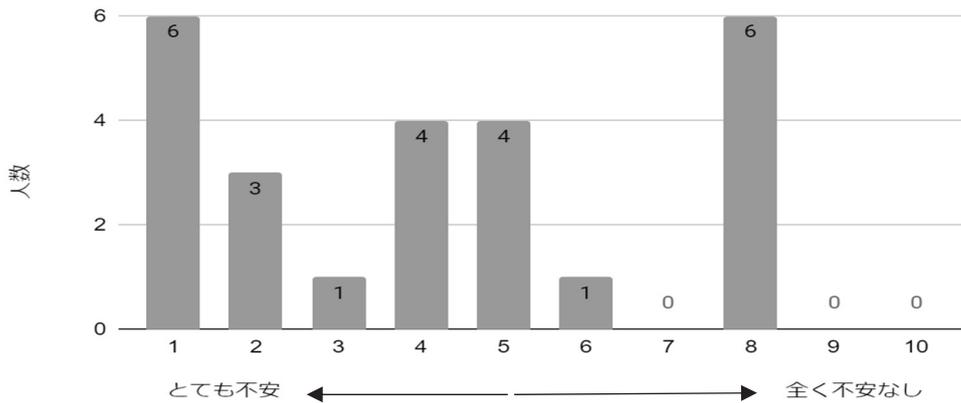
ピアノ初心者に限らず、最初の「譜読みが好き、得意」な人は、ピアノ経験者やピアノ
専門職であっても少数人であろう。ましてや、ピアノ初心者なうえ、大学や短大での一
人当たりのピアノの授業時間15分程度では、最初の作業である譜読みの指番号や音の
高低等を十分に説明する時間はなく、消化不良な時間に終わってしまいがちで、学生に
にとっては、“解らない”“弾けない”という焦りの時間になってしまうが、3年間この
「解説プリント」で授業をし、大半の学生はピアノの練習意欲が出てきて、ピアノを弾
く事の楽しさや、弾けるようになった自分に自信がついたようである。

9) アンケート調査で「解説プリント」の必要性を検証

	アンケート質問内容	はい	いいえ
①	大学・短大に入学までに、ピアノを習ったことがありますか？	15 人	28 人
②	ピアノ以外の楽器演奏の経験はありますか？	11 人	32 人
③	楽譜を見て、音がスラスラと読めましたか？	12 人	31 人
④	ト音記号とヘ音記号の、音の読み方の違いは知っていましたか？	30 人	13 人
⑤	ピアノの鍵盤の「ドレミファ……」の位置は知っていましたか？	40 人	3 人
⑥	シャープ(♯)やフラット(♭) 等の記号は知っていましたか？	35 人	3 人
⑦	ピアノを弾く上で、左右の指番号の理解はありましたか？	30 人	13 人
⑧	最初「ピアノが弾けるだろうか？」と不安がありましたか？	39 人	4 人

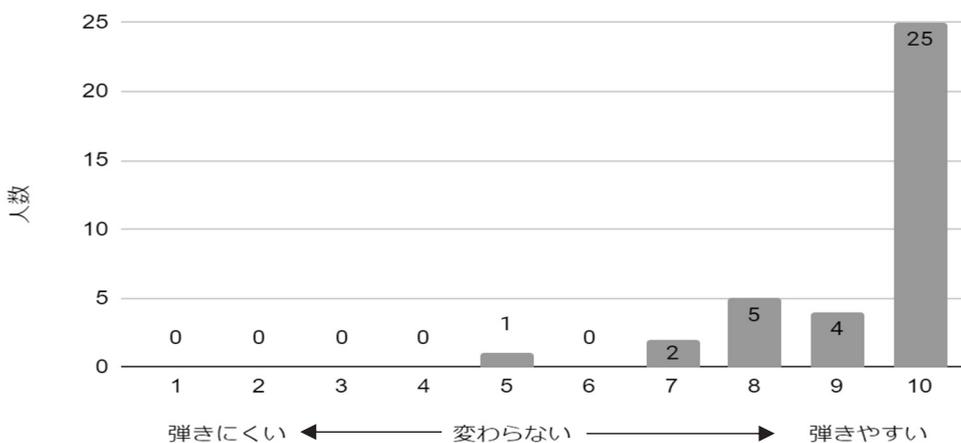
⑨ 問8、での不安度を点数で表すと？（1でとても不安・10で不安なし）

ピアノに対する不安度

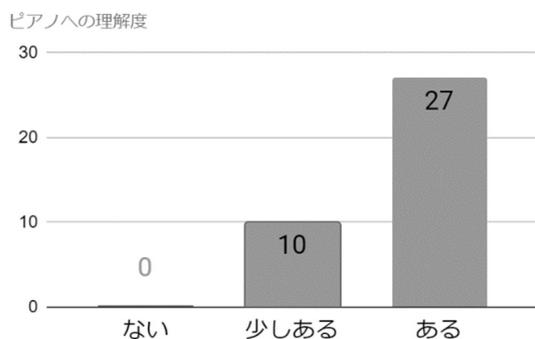


⑩ 解説プリントを見て弾いた弾きやすさのレベルは？（5=変わらないとして）

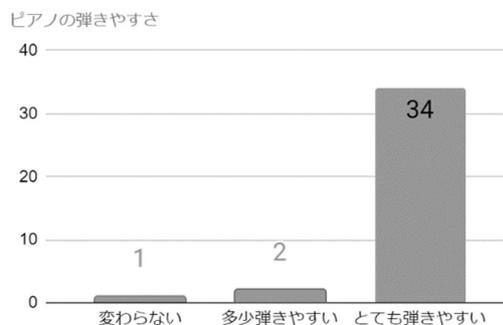
解説プリントでの弾きやすさ



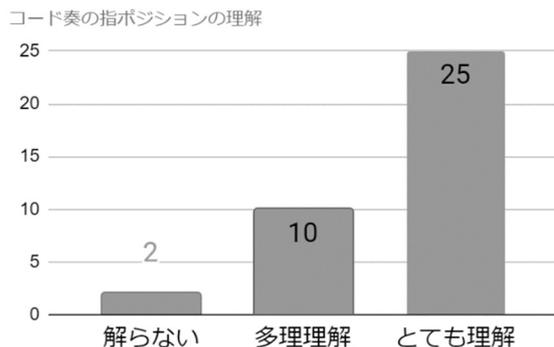
⑪音が読めなくても、解説プリント記載の記号を見ながら弾けば、スムーズに指が動き、弾ける様になった感覚はありますか？



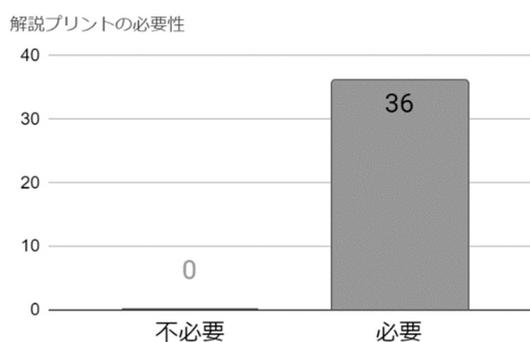
⑫指番号、階名、# b □ ♯ ♭ 等の記号を記入している楽譜の方が解りやすい(弾きやすい)ですか？



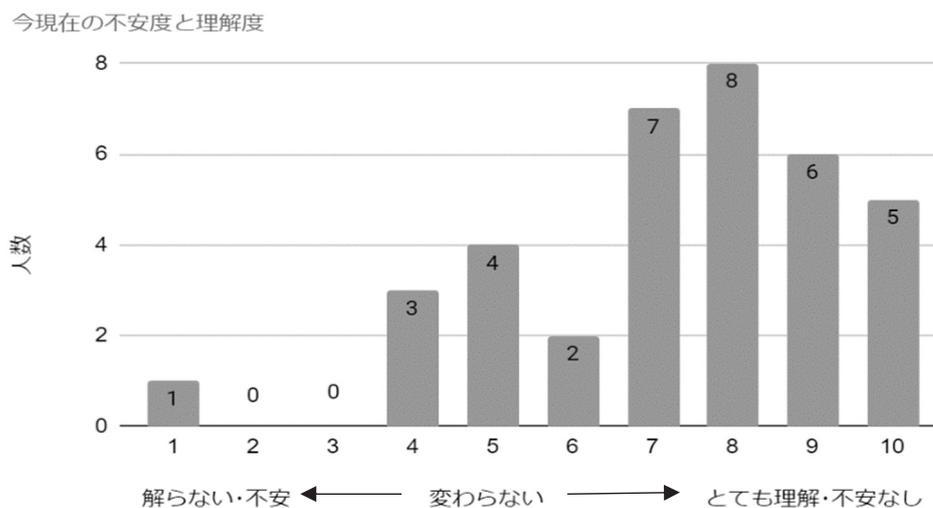
⑬左手のコード奏は、「ハ長調」のコード奏の指ポジションと他の調の指のポジションが同じであると理解はしましたか？



⑭今後の課題曲も、指番号や記号を書いたプリント楽譜があった方が良いですか？



⑮ 前期授業の終盤の今、あなたが課題のピアノを弾く上での不安度と理解度は？



- ⑩ 前期（又は後期）の授業を振り返り、相談、要望、その他感想があれば記入して下さい
- ・指番号や記号を書いて下さった楽譜は、とても助かりました。
 - ・解説プリントのおかげで、初回の授業の時より随分弾けるようになり嬉しいです。今後はリズムや強弱にも気を付けて弾けるように頑張ります。
 - ・先生は優しく、わかり易くてすごく授業が楽しいです。
 - ・子供のころにピアノを習っていましたが、楽譜に書いている記号の意味や読み方を殆ど忘れていたので助かりました。またピアノが弾け嬉しいです。頑張ります。
 - ・半年で沢山の曲が弾けるようになったので嬉しいです。後期も頑張ります。
 - ・どんどん難しくなり不安ですが、一人で練習の際、指番号はとても助かります。
 - ・頭ではわかっている、指がなかなかついていけないので、指番号で助かっています。
 - ・人生で初めてピアノが弾けて良かったです。
 - ・ピアノは小学校の頃、遊ぶくらいで右手しか弾いたことがなく、両手で弾けるか不安でしたが、解説プリントのお陰で両手弾けるようになり嬉しいです。感謝しかありません。
 - ・リモート授業期間もあったので、解説プリントがあり自己練習がスムーズにできました。
 - ・まだ理解していない事が沢山あり思うように弾けませんが、後期もがんばります。

<アンケート結果から>

- ・最初ピアノの授業が開始された時の学生の不安度（アンケート⑩）と、解説プリントで課題曲練習をしてきた後の不安度（アンケート⑮）を比較してわかるように、全員に不安が少なくなり、理解度も上がったようである。
- ・「解説プリント」を見て弾きやすいか（アンケート⑩～⑬）でも殆どの学生は弾きやすく練習する意欲に繋がっているようである。
- ・今後も「解説プリント」が必要か（アンケート⑭）では全員が必要と回答。
- ・アンケート⑯での感想では、「解説プリント」でスムーズに練習でき、曲が弾けるようになった喜びが書かれ、また同時に「また今後も頑張ります」の回答が多い。

10) 学生一人一人とのコミュニケーションの必要性

ピアノ実技授業は、他科目の授業と違い1対1の個人授業である。それぞれピアノ経験度や進度が違う為、短い時間とはいえ個人授業は有難く授業はし易い。1週間一生懸命に練習し、完璧にとはいかなくても課題曲が少しでも弾けるようになった事や、少しずつ読譜力がつきスムーズに弾けるようになった事への努力はその授業内で褒め、学生のやる気を損なわないようコミュニケーションをなるべく取り、モチベーションが下がらないように気を付けている。

筆者は大学のピアノ授業以外に、自宅で幼児から大人までのピアノを教えているが、以前は“少しできた”ことには褒める必要性はないと厳しくレッスンしていたが、やはり大学の授業でピアノ初心者の学生と関わってきた年月の間に、“少しできた”がどれだけ重要な事で素晴らしい事かを痛感させられた。その“少しできた”が徐々に“できるようになった”

に変わっていく喜びを、学生と一緒に教員も感じる事が大切であろう。

4. まとめ

以上の考察結果から、筆者独自で作成した「解説プリント」を配布して、15分の授業内では十分に説明できない指番号、音符の説明、指のくぐりや上下の動き、記号、指のポジションが変わる箇所、音楽記号の説明等、細かく記入した楽譜で練習した全ての学生は、練習し易く、練習がスムーズにいった様子で、課題曲を次々合格し実技試験にも合格し、単位取得している。また、ピアノが弾けるようになった喜びを感じる学生も多く、苦手意識を克服できた学生や満足感や達成感を得られた学生も多い。

ピアノ初心者学生においては、ピアノを弾くという学習以前に、楽譜の譜読みにまず難航する。音符が読めない学生は、多くの時間をかけ、1曲1曲全ての音に階名を書く作業から始まり、やっと弾く段階になっても指番号やリズムが解らず、特に左手の指は思うように動かせず、両手で弾く以前にピアノを弾く練習に嫌気がさす学生が多い。

1人の学生がそれぞれ1週間に1回15分程度の授業時間で、毎回課題曲が2～3曲あり、その日に合格しない曲があれば、その曲は翌週に持ち越され、翌週分の課題曲と合わせれば練習曲数が4～5曲と、どんどん雪だるま式に膨らみ、課題曲の練習に追われる事になる。何とか、その都度課題曲を合格させたい気持ちはあるものの、譜読みでつまずき練習が思うようにいかず、くじけそうな学生を目の当たりにするのが実情である。

筆者はK短期大学保育科の通信教育の学生のピアノも担当しているが、ピアノの単位だけが何年経っても取得できない学生が多く、卒業できずに諦める学生もいる様子で、それだけピアノ初心者にとって「ピアノを弾く」という事の難しさを痛感させられる。

保育士や小学校教員を志す学生にとって、ただピアノの単位が取ればよい。わけではなく、本来ピアノの授業で“子供たちがリズムにのって楽しく”、または“心込めて優しく”といったように、その曲に合わせ表現をしながら心を養う授業でないといけな

い。そこまで奥深く学生達に伝える余裕がないのが今後の課題ではあるが、まずは楽譜が読め、ピアノが弾け最低限、幼児や児童の歌う曲が弾けるようになり単位取得し、将来的には保育士試験、教員採用試験を突破し、実際の現場で音楽の時間にピアノを弾きながら歌える、子どもたちにとって尊敬できる先生になってもらいたいと願っている。

そして「解説プリント」は今後も活用しながら、現在不足している保育士、教員を“ピアノ”という単位で諦めないよう指導していき、更にはピアノで色んな表現、音色が出せるようにまで学生自身が学んでいってほしいと願っている。

参考文献

- 平松愛子 中島美保 中村寛子 (2019年)「音楽(ピアノ教本)」 近畿大学九州短期大学
笹本小野美 飯高陽子 (2020年)「ピアノ指導力アップ!こどもの演奏能力を飛躍させる
レッスン・メソッド」 シンコーミュージック